



大堀・苅野地区



請戸・幾世橋地区



津島地区



浪江地区



ご成人 おめでとう ございます

1月7日、平成30年浪江町成人式が浪江町地域スポーツセンターで行われました。ふるさと浪江での開催は7年振り。出席した新成人117名は、故郷への思いとはたちの志を胸に、堂々と羽ばたいていきました。郷里での友人・恩師との再会に、皆さんの笑顔があふれていました。



●新成人代表●
山本 幸輝さん
(大堀地区)

誓いの言葉

私たちは今日この場に至るまで様々な困難を乗り越えてきました。特に、日本に大きな災害をもたらした、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故。そして、度重なる避難生活。あれから7年が経とうとしている今、私たちはようやく浪江に帰ることができるようになりました。各々が様々な思いを抱きながらも、生まれ育った浪江の町で、盛大な式を挙行していただけることを、大変幸せに思います。

皆さんは20年間、どのような人生を歩んできましたか？決して楽しいだけの20年間ではなかったのではないかと思います。苦しいこと、つらいこと、思い出したくもない過去、数え切れない後悔があるのではないのでしょうか。

浪江町も震災から7年が経とうとしています。その姿は大きく変わってしまいました。思い出のあの場所は無くなってしまい、もしくは私たちの知っているあの場所とは全く違うものになっています。街を歩くと、震災から7年が経とうしている今でも手付かずの建物があり、やるせない気持ちにもなります。しかし、私たちに飛び込んでくる浪江町のニュースは決して悲しいものばかりではありません。昨年の3月には浪江町に人が住めるようになり、夏には盆踊りが開催され、秋には様々なスポーツイベントで成果を収め、そして11月には十日市が震災後初めて浪江町内で開催されました。浪江町の明るいニュースを聞くことは、悩みに尽きない生活でも、私たちの心の支えになったのではないのでしょうか。

震災後7年、変化が激しい中でも、変わらないものも、もちろんあります。それは今日この場に集まった友人たちとの絆です。常日頃顔を合わせる友人から震災以降初めて顔を合わせる友人。もしかすると、7年間共に時を過ごしていない友人とでも、私たちは以前にも増して強い絆を感じるのではないのでしょうか。それも、ここ浪江町での思い出があったからこそだと思います。これからの浪江町は、今まで以上の困難にさらされること予想されます。人口問題、財政問題、未だ解決されていない帰還困難区域の問題、困難の数は数えることができないほどです。しかし、浪江町民にはそんな困難を乗り越えられるだけの武器がすでに備わっているのではないのでしょうか。浪江は過去にも幾度の大きな自然災害の被害に遭ってきました。それでも私たちの先人は、諦めず浪江の復興を成し遂げ、震災以前の過ごしやすい浪江をつくってくださいました。私たち浪江町民にはそんな先人たちの思い、心の奥でしか感じられないような感覚を兼ね備えているはずなんです。

そして私たちには、あの東日本大震災でも切り裂くことができなかった絆があります。その絆はここにいる町民だけではなく、ここにはいない町民とももちろんつながっています。幾度の災害に遭っても立ち上がる精神、そして私たち町民の絆があれば、浪江の復興は必ずや果たすことができると思います。これまでの歩んできた20年、どんな荒波も乗り越え今日この日を迎えることができたのは、何よりも家族のおかげです。時には心もとなない言葉を掛けてしまうことや、身勝手な行動で振り回してしまいましたが、どんな時でも心の支えになったのは両親の温かい存在でした。また、多くの思い出を共有してきた友人、道を正してくださいました恩師、常日頃自分たちを気にしてくださる町民の方々、そして様々なご支援を賜りました日本全国の方々、皆さんの支えがなくては今日この場に立つことができませんでした。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。最後にありますが、これまで培ってきた絆、これから新成人を目指す、何事にも真摯に取り組む決意を申し上げます。誓いの言葉とさせていただきます。



● 請戸地区 ●
柴 綾花さん

本日、ふるさとである浪江町で多くの友人と一緒に、成人式を迎えることができたことに、今まで支えてくれた家族や友人、全ての方々に深く感謝いたします。

震災以降、私たちの生活は一変し、故郷を追われた私たちにしか分からない数多くの経験をしました。

今後は、この経験から学んだことを生かし、社会人としての自覚と責任を持ち、浪江町の復興を担いながら21世紀を力強く歩んでいきたいと思えます。



● 幾世橋地区 ●
蒲原 一輝さん

この20年間決して楽な道ではありませんでしたが、家族を始め多くの方々の支えと応援のおかげで無事に成人を迎えることができました。心より感謝しています。

これからの人生は、今まで受



● 浪江地区 ●
清信 亮太さん

けたたくさんの恩恵を少しずつ返していく時間だと思っています。学生の自分に今できることは、健康第一で今を一生懸命に生き、元気な姿を見せることです。これが福島に住む家族や全国各地に住むお世話になった方々への最大限の恩返しだと思います。そして、残りの2年間の学生生活で、これから私が故郷のために何ができるかをしっかりと考え、覚悟を決めて行動していきたいです。

本日、成人式を迎えるに当たり、今まで自分を支えてきてくれた全ての方々に感謝いたします。

今、浪江町で過ごした日々を思い返すと、楽しかったこと、悔しかったこと、つらかったこと、ほかにもたくさんの思い出がよみがえり、懐かしさで胸がいつぱいになります。それと同時に、やはり自分自身の原点は浪江町にあるのだということ

強く感じます。

これから先、浪江町で育ったと



● 大堀地区 ●
半谷 千尋さん

いうことを誇りに思い、自分の道を切り開いていけるよう、日々頑張っていきたいと思えます。

この度、浪江町で成人式を迎えることができ大変うれしく思えます。両親を始め、今まで支えてきてくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も感謝の気持ちを持ち、大人としての自覚を持ち、日々精進していきたいです。



● 苅野地区 ●
木幡 大也さん

この度、無事に成人式を迎えることができ、今までお世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

震災から6年が経ちましたが、また浪江町で集まることができ、大変うれしく思います。

はたちになり、これまで以上に発言や行動に責任を持たな



● 津島地区 ●
佐藤 希美さん

ればなりません、自分の将来に向けて日々精進していきたいと思えます。

晴れて成人式を迎えることができました。20年間支えてくだ

さいました家族、先生方、私たちに関わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。私たちの原点はこの津島の学び舎にあります。保育所ではのびのびと自分らしく、小学校・中学校では人の温かさを感じられる学び舎に通うことができたのは一生の思い出です。支えてくださる人々への感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生を歩んでいきたいと思えます。

